

 フジ日本精糖株式会社

証券コード：2114

第 **101** 期  
中間株主通信

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日



## 企業理念

私たちは、「夢のあるたくましい会社」を目指し、健康な生活づくりに貢献します。

## 経営方針

- ① 顧客第一主義の徹底
- ② 会社の発展と共に社員が成長する企業文化の形成
- ③ 公正で透明性のある企業活動の推進
- ④ 社会に評価される企業価値の向上
- ⑤ 社会に貢献する企業市民活動の充実

### CONTENTS

トップインタビュー	.....	P 2
セグメント別の状況	.....	P 5
連結財務諸表	.....	P 7
会社概要／株式情報	.....	P 9
トピックス	.....	P10
インフォメーション	.....	裏表紙

#### ● 表紙の写真について

表紙の写真は、当社「写真同好会」の辻田 和人が撮影した作品です。



撮影地 - 山中湖 - 「赤富士のリフレクション」

## トップインタビュー

### パーパスを具現化し、社会貢献と企業価値の拡大を目指します。

**Q** 新たに制定したパーパスについてお聞かせください。

**A** サステナビリティへの意識が高い中堅・若手社員を中心に議論を重ね、ボトムアップで制定しました。

このたび当社は、企業の社会的存在意義を示すパーパスとして、「食を科学し世界をパワフルに！」という言葉掲げました。利益を企業の目的とした往時から、社会への貢献がより重視され、評価を受ける時代へ変化したことを踏まえ、当社が今後どのような貢献を果たしていくのか、目指す方向性を明確化し、社内・社外に発信すべく制定したものです。

その内容については、SDGs推進委員会で議論を重ね、挙げられた候補案の中から社内投票で選出したものを審議し、取締役会で決議するというプロセスを経て制定されました。SDGs推進委員会は、サステナビリティへの意識が高い中堅・若手社員を中心に構成されており、そのメンバーの想いがパーパスに反映されています。

サトウキビをはじめとする持続可能な生物資源を用い、当社ならではのフードサイエンス技術を活かすことで、世界を元気にする新しい価値を生み出していく。パーパスが示すこの方向性は、当社の取り組みを大きく変化させるものではなく、私たちが再認識すべき当社事業の基軸であり、社内への共有・浸透を図りつつ、社会に対するコミットメントとして具現化していきます。

**Q** 上半期の営業状況と、通期の見通しをご説明願います。

**A** 精糖事業は増収を確保し採算性を改善。「イヌリン」の海外販売において競争が激化しています。

この半年間を振り返ると、精糖事業の営業状況は、コロナ禍による影響の緩和が進み、製品の荷動きが活発となったものの、物価の上昇による買い控えが生じたことなどから、販売数量はコロナ禍前の水準にまでは戻りませんでした。一方でコスト環境は、海外原糖相場の高騰やエネルギー価格・物流費の上昇などにより厳しい状況となりましたが、値上げの浸透により増収を確保し、採算性の改善が進みました。

機能性素材事業のうち「イヌリン」の国内販売は、糖質オ



代表取締役社長 曾我 英俊

フ食品や機能性表示食品への採用が増加し、好調に推移しました。しかし東南アジアを主とする海外販売は、欧州産競合品との競争激化により売上が減少したため、「イヌリン」を生産するタイ子会社において、採算悪化が生じました。

機能性素材事業の連結子会社であるユニテックフーズ株式会社は、ペクチンやゼラチン、コラーゲンなど主力素材の好調に加え、介護食などヘルスケア関連製品も販売を伸ばし、増収・増益を遂げました。

結果として当上半期の連結業績は、売上高125億17百万円(前年同期比12.7%増)、営業利益10億62百万円(同6.9%増)、営業外収益に一過性の受取配当金6億69百万円を計上したことから、経常利益18億87百万円(同58.0%増)、親会

社株主に帰属する四半期純利益14億43百万円(同49.9%増)となりました。

下半期は、引き続きコスト環境の厳しさが継続し、「イヌリン」の海外販売も上半期と同様の状況が続くと見えますが、全体的には砂糖事業と「イヌリン」の国内販売、ユニテックフーズ株式会社の好調によりカバーし、また後述させていただき通り、ビジネスホテルの開業による不動産事業の業績寄与も見込んでいます。「イヌリン」の海外販売については、回復に時間を要すると見ており、来期以降の契約獲得や北米進出を含む新たな地域への展開に向けて、足もとを固めていきます。

以上を踏まえ通期の連結業績は、売上高252億円(前期比11.1%増)、営業利益16億50百万円(同9.0%減)、経常利益25億円(同17.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益18億50百万円(同10.6%増)を予想しています。

**Q** 非砂糖分野の拡大に向けた動きをお聞かせください。

**A** ビジネスホテルの開業や植物肉の展開、通信販売への参入など、事業領域の拡大が進んでいます。

当社の安定収益を担う不動産事業では、中央区日本橋茅場町の本社跡地に建築を進めていたビルディングが竣工し、2023年9月よりビジネスホテル「東横INN茅場町駅」がオープンしました。本物件による賃貸収入は、この下半期から業績に反映されます。

双日株式会社、ロイヤルホールディングス株式会社との協業

体制のもと、ユニテックフーズ株式会社の子会社である株式会社Tastableを中心に展開中の植物肉「NIKUVEGE(ニクベジ)」は、国内の空港施設やレストランなど、健康への意識が高い客層をターゲットとした採用獲得を着々と進めています。2023年8月には、シンガポールで「NIKUVEGE」の提携販売を開始しました。植物肉事業は、中長期の成長に向けてじっくり育成していく方針です。

また2023年10月には、株式会社ErThreeからの事業譲受により、新たに通信販売事業を立ち上げる体制を整えました。これは、当社の機能性食品素材を自社Webサイトで取り扱い、コンシューマー向け販売を展開していくもので、特に機能性食品事業とのシナジー発揮を狙っています。自社Webサイトの開設は、2024年初めを予定しており、今後は本サイトを通じて小売商品を効率的に開発・上市していく考えです。

売上高に占める非砂糖分野の割合は、当上半期で48.3%となりました。持続的成長の実現に向けて、引き続きパーパスに則った事業領域の拡大を進めてまいります。

**Q** 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

**A** 2040年に向けた長期ビジョンを策定し、来期より中期経営計画を始動する予定です。

当社は、資本コストや株価を意識した経営への対応として、ROEの向上と株主還元強化、IR開示の充実に取り組んでいます。

ROEは、2022年3月期以降8%を超える水準を維持していますが、中長期的に10%以上を目指しており、一層の利益改善とキャッシュの創出、株主還元を通じた自己資本のコントロールにより向上を図ります。

株主還元の強化は、年間配当性向40%以上を目標とした上で、当期より中間配当を実施し、株主優待制度も復活させています。さらに新たな基準として、DOE(自己資本配当率)3.5%以上を目標に掲げました。

なお今回の中間配当は、上記方針にもとづき1株当たり15円を実施しました。期末配当も同額を予定しており、合わせて年間配当額は同30円(前期比13円増配)、年間配当性向は43.5%、DOEは3.6%を見込んでいます。

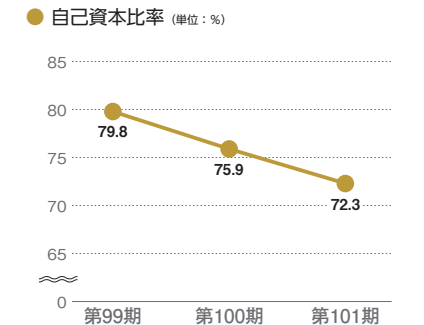
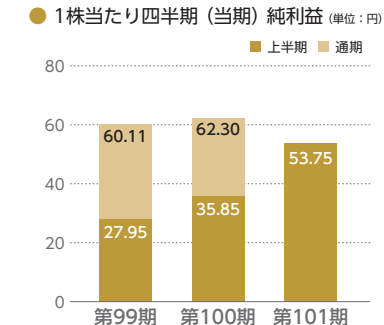
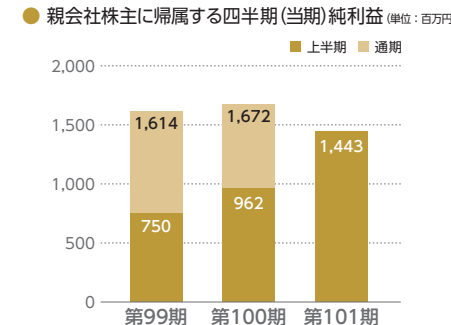
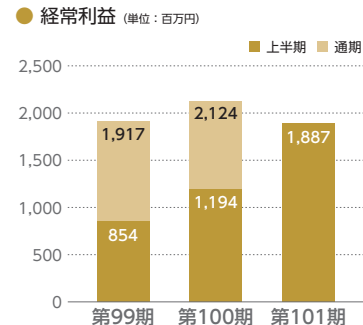
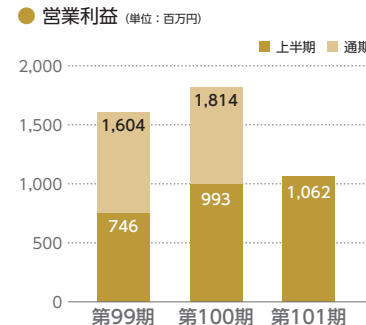
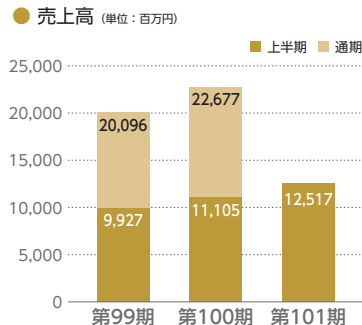
また資本コストを意識した経営を進めるため、現在2040年に向けた長期ビジョンの策定を進めています。合わせて中期経営計画についても、従来のローリング方式による計画を取り止め、2025年3月期から新たな中期経営計画を策定する考えです。

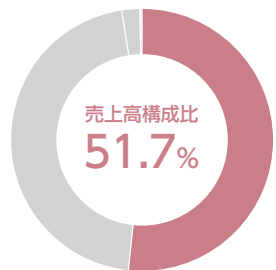
株主の皆様におかれましては、パーパスにもとづく社会的貢献と持続的成長の実現を目指し、全社一丸となってチャレンジしていく今後の展開にご注目いただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



連結業績ハイライト

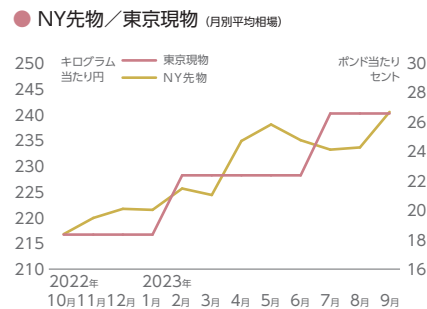
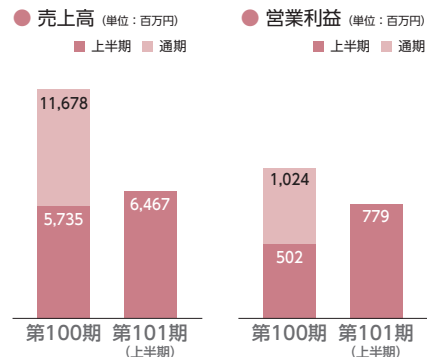
CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS





## 精糖事業

事業内容：精製糖、砂糖関連製品の製造販売を行っております。



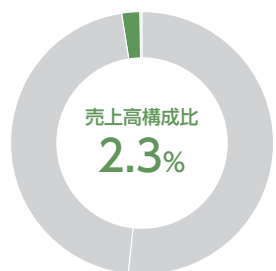
精糖事業につきましては、海外原糖市況は、ニューヨーク先物市場が期初22.35セント（1ポンド当たり）で始まり、タイ、インドといった北半球の生産国におけるエルニーニョ現象由来の干ばつによる減産見通しと、投機筋の買い増しから26セント台半ばまで上伸を続けました。その後は、ブラジルにおけるサトウキビの堅調な压榨ペースが確認されると反落し、23~24セントの範囲で暫く保ち合いが続きましたが、インド当局から白糖輸出制限を示唆する発言を受け、世界需給の引き締めが意識されたことで、再び値を上げ26.27セントで当上半期末を終了しました。

期初	高値	安値	期末	平均
22.35	27.62	21.81	26.27	24.98

一方、国内製品市況は、東京現物相場（日本経済新聞掲載）227円~229円（上白大袋1キログラム当たり）で始まりましたが、海外原糖相場高騰および物流・資材コスト上昇により、2023年7月に12円上昇し、239円~241円となりました。

製品の荷動きとしましては、価格高騰による買い控えが見られたものの、飲料・乳製品関係が堅調に推移し、販売数量は前年並みとなり、値上げが浸透したことにより売上高は増収となりました。利益面では原材料やエネルギーの価格上昇で製造コスト、物流コストが大幅に増加しましたが、適正価格の販売を行った結果、コロナ禍前の水準までには戻っていないものの、増益となりました。

この結果、売上高6,467百万円（前年同期比12.8%増）、営業利益779百万円（同55.1%増）の増収増益となりました。

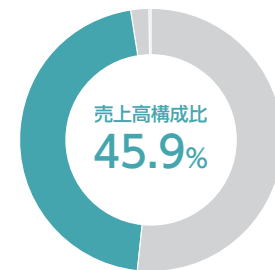


## 不動産事業

事業内容：当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業を行っております。

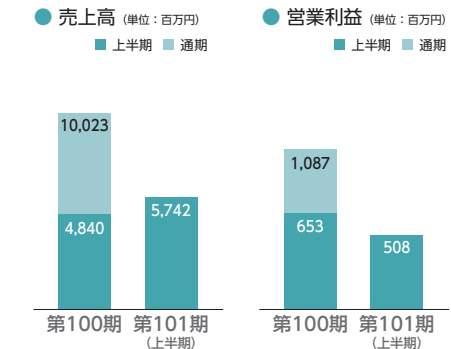


不動産事業の業績は、本年9月1日に旧本社ビルの跡地にビジネスホテル「東横INN茅場町駅」を建設し、賃貸を開始しました。この結果、売上高289百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益246百万円（同7.6%減）の増収減益となりましたが、引き続き安定収益確保に貢献いたしました。



## 機能性素材事業

事業内容：機能性食品素材、食品添加物、切花活力剤等の製造販売、果実加工原料の販売を行っております。

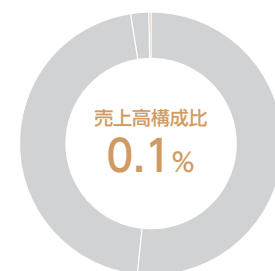


機能性素材事業につきましては、機能性食品素材「イヌリン」は、国内販売では、糖質オフ、腸内環境改善の機能性訴求商品の採用増などがあったものの、ほぼ前期並みの販売数量となりました。海外販売では、タイでの乳飲料向けの販売数量増などがあったものの、アジア諸国において、コロナ禍後の健康需要が落ち着きをみせ、その結果、市場在庫が過剰となり、需給調整が起こったことで販売数量は前期を大きく下回りました。

切花活力剤「キープ・フラワー」は、夏場の天候要因と為替変動により切り花の高値が続いたことで需要が減り、業務用、家庭用ともに前年比マイナスとなりました。

連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、主力のペクチン、ゼラチン、コラーゲンの天然添加物素材の販売も回復した結果、増収増益となりました。

これらの結果、売上高5,742百万円（前年同期比18.6%増）、営業利益508百万円（同22.2%減）の増収減益となりました。



## その他食品事業

事業内容：タイにおいて食品関連事業を行っております。

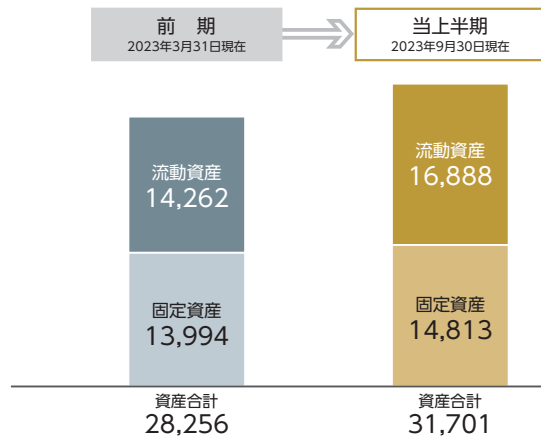


その他食品事業につきましては、タイでの食品関連事業が中心ですが、前連結会計年度において連結子会社DAY PLUS (THAILAND) Co., Ltd.の株式の一部を売却したことにより、同社が連結の範囲から除外され、業績は売上高17百万円（前年同期比92.7%減）、営業損失3百万円（前年同期営業利益18百万円）の減収減益となりました。

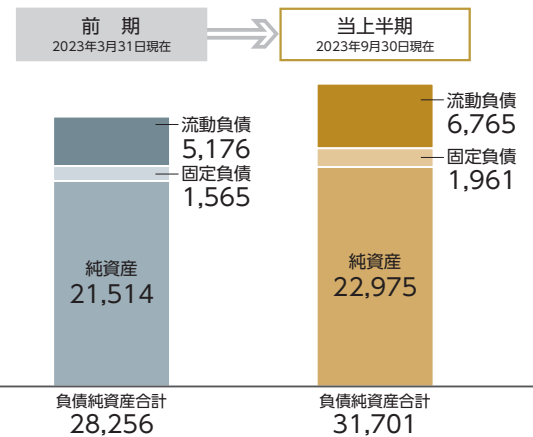


連結貸借対照表

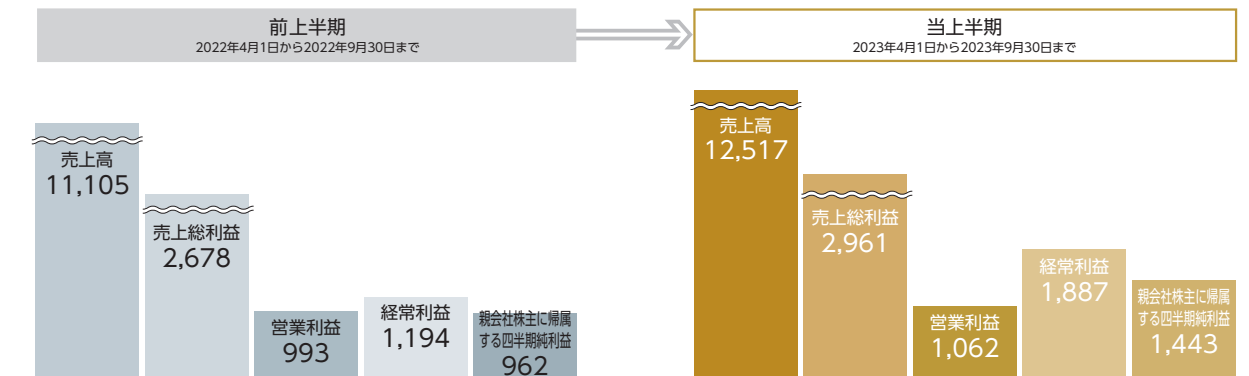
● 資産の部 (単位: 百万円)



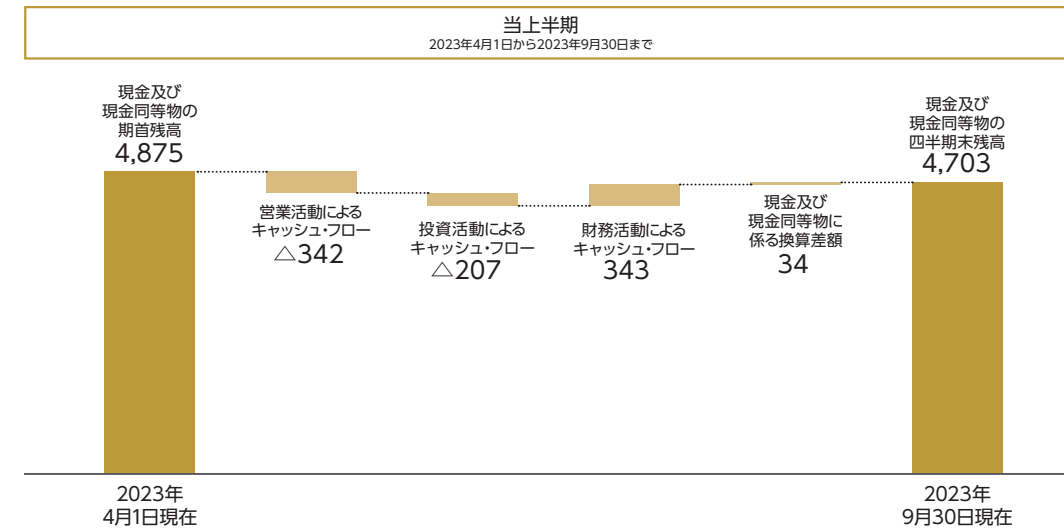
● 負債・純資産の部 (単位: 百万円)



連結損益計算書 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)



財務のポイント

● 資産

資産につきましては、流動資産で前期末に比べ18.4%増加し、16,888百万円となりました。これは主として棚卸資産の増加およびリース投資資産の増加等によるものであります。

また、固定資産につきましては、前期末に比べ5.9%増加し、14,813百万円となりました。これは主として投資有価証券の増加等によるものであります。

● 負債

負債につきましては、流動負債で前期末に比べ30.7%増加し、6,765百万円となりました。これは主

として短期借入金等の増加等によるものであります。

また、固定負債は前期末に比べ25.3%増加し、1,961百万円となりました。これは主として繰延税金負債の増加等によるものであります。

● 純資産

純資産につきましては、前期末に比べ6.8%増加し、22,975百万円となりました。これは主として親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等によるものであります。

会社概要

商号	フジ日本精糖株式会社
英文名	Fuji Nihon Seito Corporation
設立	1949年(昭和24年)7月
資本金	1,524百万円
従業員数	54名
本社所在地	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号 電話 03(3667)7811(代表)
清水工場	〒424-0924 静岡県静岡市清水区清開一丁目4番10号 電話 054(334)5353(代表)
横浜共同生産工場	太平洋製糖株式会社 〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町13番46号 電話 045(501)0511(代表)
子会社	協立食品株式会社 ユニテックフーズ株式会社 Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd. FUJI NIHON (Thailand) Co.,Ltd. UNITEC FOODS KOREA Co.,Ltd. 株式会社Tastable
関連会社	DAY PLUS (THAILAND) Co.,Ltd. 太平洋製糖株式会社 マ・マーマカロニ株式会社 南栄糖業株式会社

役員

取締役会長	櫻田 誠司
代表取締役社長	曾我 英俊
取締役常務執行役員	関根 郁也
取締役執行役員	大橋 高弘
取締役	高橋 明彦
取締役	和田 哲義
取締役	埴原 正和
常勤監査役	梶田 伸哉
監査役	藤田 世潤
監査役	二宮 照興

執行役員

常務執行役員	大口 真央
上席執行役員	和田 正
上席執行役員	新野 真人
執行役員	斎藤 寛
執行役員	谷津 裕司

監査法人

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

株式の状況

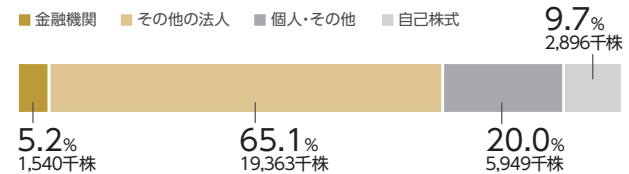
発行可能株式総数	110,000,000株
発行済株式の総数	29,748,200株
株主総数	20,744名

大株主

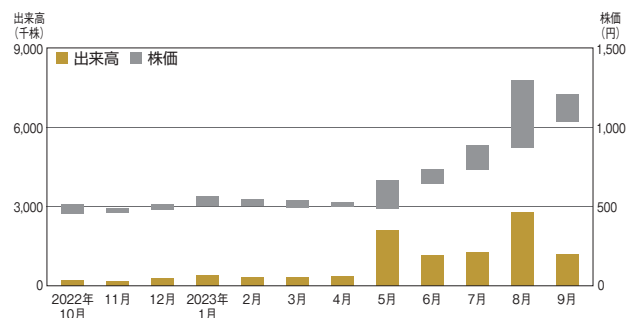
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
双日(株)	8,153	30.4
和田製糖(株)	2,354	8.8
鈴与(株)	1,902	7.1
豊田通商(株)	1,229	4.6
(株)静岡銀行	792	2.9
(株)榎本武平商店	758	2.8
小倉運輸(有)	669	2.5
新潟県砂糖卸荷受商業協同組合	600	2.2
(株)サカタのタネ	563	2.1
東京海上日動火災保険(株)	447	1.7

(注) 1. 持株比率は自己株式(2,896千株)を控除して計算しております。  
2. 2020年10月14日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、和田製糖(株)が当社の株式を保有している旨が記載されておりますが、株主名簿上の所有株式を上記大株主の持株数として記載しております。

所有者別株式分布状況



株価の推移 (東京証券取引所実績)



東横INN茅場町駅オープン

東京都中央区日本橋茅場町の旧本社跡地に建設を進めておりました、新たな「フジ日本ビル」が竣工しました。不動産事業による安定収益の確保を目的として株式会社東横インに貸与を開始し、2023年9月1日にビジネスホテル『東横INN茅場町駅』としてオープンしました。また当日は、来賓、関係者および報道機関の方々をお招きしてオープニングセレモニーを行いました。



## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

基準日 3月31日  
なお、中間配当を行う場合は9月30日

定時株主総会 毎年6月開催

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座 □口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
東京都府中市日鋼町1-1  
同連絡先 TEL 0120-232-711 (通話料無料)  
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

上場取引所 東京証券取引所

公告方法 当社のホームページに掲載いたします。  
公告掲載URL <https://www.fnsugar.co.jp>  
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

### 【お知らせ】

- (1) 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。

 **フジ日本精糖株式会社**

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号  
TEL : 03-3667-7811 <https://www.fnsugar.co.jp/>

**UD  
FONT**

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。